

## 初心者クラス

学習テーマ：フランス語で〈ある人〉を紹介しよう！

初心者クラスは、フランス語を初めて学ぶ生徒を対象にしています。学んだことはないけれどフランス語に興味がある、進学に備え大学でフランス語を学ぶ体験をしてみたい、という方のためのクラスです。

このクラスの狙いは、フランス語に親しむこと、そしてフランス語を使ったコミュニケーションを体験することです。1日目は挨拶や自己紹介の仕方を学んだ後、まずは自分が住んでいるところ、職業、話せる言語、好きなものや好きなことを伝える表現を、次に〈ある人（第三者）〉がどのような人かを尋ねたり答えたりする表現を学びました。学んだ表現は、大学院生のティーチング・アシスタント（TA）によって考案された3つのアクティビティを通して使えるようにします。1つ目のアクティビティ「カードで語彙を覚えよう」は、グループ内で順番に引いたカードの語彙（国名や言語名）をフランス語で言うゲーム、2つ目の「Xの情報を得よ！」は、フランス語で情報交換をしながら、探している人物の名前や顔を断定し、それを「ボス」に報告するというゲームです。特に初日最後に行った「Xの情報を得よ！」は、教室の中を歩き回って、多くの人に話しかけなければならないということもあり、大変盛り上がりしました。

2日目は〈ある人〉を紹介する表現を学ぶことから始まりました。その後は「グループ〈公認〉キャラクターをフランス語で紹介しよう」という3つ目のアクティビティに挑戦です。各グループに配られたイラストの人物は「グループ〈公認〉キャラクター」という設定で、このキャラクターのプロフィールをグループ内で話し合っって自由に決め、それをフランス語で発表するというものです。グループ内の協働作業は順調に進み、発表で披露されたキャラクターは皆「押し」にしたいような素敵な人物になりました。

最後は〈ある人〉について紹介する発表の時間です。受講者全員が2日間しっかり学んだ成果を披露すべく、紹介したい人物（押し、家族、ペット、好きなキャラクター、好きなアーティストなど）の絵や写真を見せながら、学んだ表現を使って、堂々と立派に発表を行い、盛大な拍手を受けました。



## 準初心者クラス

学習テーマ：観光プランをたて、フランス語で報告しよう！

準初心者クラスは、第2外国語として、高校で週に1回か2回程度、楽しみながらフランス語を学んでいる生徒を対象にしています。フランス語のレベルとしては、実用フランス語技能検定試験（仏検）の5級から4級程度を想定しています。

このクラスの狙いは、単語や表現、文法を覚えたり、理解したりということよりも、簡単なフランス語でよいから、自分から発信し相手に理解してもらう体験をすることにありました。1日目は自己紹介や数字、日付、時間などの最低限の表現を覚えなおすことから始め、最初の2時間は、近くの人とのペア

ワークを多く取り入れ、またフランス人 TA に聞いてもらうことで、自分の話すフランス語が相手にちゃんと伝わるのか、伝わらない場合には何が問題なのか（リズムなのか、発音なのか）を確認し、修正していきました。そして最後の 1 時間で、リヨンまたはストラスブールのどちらかの街の観光プランを立て、それをフランス語で発表するという課題に向けて、使えるような単語や表現を確認し、実際に使う練習を重ねました。

2 日目はまず観光プランをフランス語で書いていきます。準初心者クラスの受講者は 7 名ほどでしたが、常時 3～4 人の教員や TA が生徒たちの間をまわり、一緒に原稿を作りました。みな積極的に取り組んでいて、「一人ひとりのレベルに合わせて指導が受けられた」、「分からないことをすぐ質問できたのがよかったし、説明が分かりやすかった」との感想が寄せられました。原稿ができたら、今度は読み方・発音の練習です。ただ正しく読めればよいわけではなく、フランス語で人に伝わるように読むにはどうす

ればよいのか、生徒、教員、TA みんなで考えながら練り上げていきます。必ず 1 回はフランス人 TA に聞いてもらうようにしたので、生徒たちのモチベーションもあがったようです。

最後の時間は、経験者クラスと合同での成果発表会です。全員が堂々たる観光プランを披露し、教員や TA から励ましのコメントをもらいました。新しくできた友人たちとフランス語をとおして関係を深めながら、一人ひとりのレベルに合わせた個人指導も受けられたと、どの生徒も満足そうな様子で、見ていた私たちもとても嬉しくなりました。



## 経験者クラス

学習テーマ：フランス語で Exposé（スピーチ）！

経験者クラスでは、フランス語学習歴はさまざまでも、仏検の 3 級から準 2 級程度のレベルで、かなりフランス語に馴染んできた生徒たちを対象としています。「フランス人の話を聞き、それをもとにフランス語でスピーチをする」というのがこのクラスの目標です。

1 日目はまずフランス人 TA が、フランス全国で夏至の日で開催される「音楽の日」、そして「海外で暮らす」ことについて 2 つの話をしました。次は生徒たちから TA へのインタビューです。いずれかのテーマを選び、ひとり 5 分の持ち時間の間にできる限りのことを聞き出します。たまに日



本語も交えながら、なごやかな雰囲気です。インタビューができました。最後の時間は翌日のスピーチ原稿作成です。聞く人にちゃんと伝わるよう、できる限り明快に考えをまとめ、単純な表現で書くことを目指しました。フランス人TA、3人の教員と相談しながら、1時間ほどの間に全員が自分の言葉で考えをまとめることができました。

2日目はスピーチの練習から始めました。聞く人に伝わるよう、声を張り、口を大きく動かし、母音をしっかり響かせて、ゆっくり話すこと、そして意味を考えて区切ることが大切です。フランス人TAと2人の教員が教室の隅に陣取り、次々にスピーチを聞きます。3分間で交代ですが、何度も順番が回る間にそれぞれが発音を磨き、話し方を工夫してどんどん進歩しているのが実感できました。原稿を見ずに話せるようになった生徒も複数いました。

最後の発表会は準初心者クラスと合同で行いました。それぞれ全く違う内容なので、まず日本語で簡単に内容を話してから、フランス語でスピーチをします。全員自分の考えをしっかりと伝えることができ、教員やTAから賞賛のコメントをもらうことができました。

## 準初心者・経験者合同クラス

準初心者・経験者クラスの受講者に対して、2つの文学講義「バカロレアでフランス語を学ぼう」と「モリエールの作品で学ぼう」が行われました。高校では学ぶ機会の少ないフランス文学作品に触れることを楽しみにしていた受講生もいたようです。

「バカロレアでフランス語を学ぼう」では、バカロレアの予備試験をもとに、18世紀のフランス文学を代表する思想家のデイドロと、同じく18世紀フランス文学の代表的作品である『マノン・レスコー』という小説をご紹介します。『マノン・レスコー』にはすぐれた翻訳もありますので、この授業で興味をもった方は夏休みを利用してぜひ読んでみてください。また、フランス独特の試験方式である Commentaire (テキスト注釈) と Dissertation (小論文) についても実際に出題された問題をもとに解き方の一部を解説しました。バカロレアの問題、とくに授業で取り扱ったフランス語(日本で言えば「国語」)の問題には、フランスという国の個性、国柄みたいなものがはっきり出ていることを感じてもらえたいでしょうか。



「モリエールの作品で学ぼう」では、1668年に上演されたモリエールの『アンフィトリオン』の一部を原文でご紹介しました。韻文で書かれているのですこし手ごわく感じたかもしれませんが、同時にすでに知っている文法事項でほぼ読み解けることにお気づきいただけたと思います。



アンフィトリオンの妻アルクメーヌに恋をしたゼウスとアルクメーヌからは、ギリシア神話のなかの最大の英雄ヘラクレスが誕生します。太陽王と呼ばれたルイ14世は、自らをヘラクレスに見立て、戦争で活躍する勇敢な王としてのイメージをつくりあげていました。このような時代背景にも関心を持っていただければ嬉しく思います。

## 全受講者合同クラス

全受講者が一緒に学べる授業として、「探究学習：フランス旅行大計画！」と、「フランスのチョコレートで学ぶ」を実施しました。

「探究学習」の講師は本学出身者で演出家として活躍中の小原花先生です。本学文学部「舞台芸術プログラム」のコア科目の授業も担当されています。まずはフランス語を使いながら体を動かすゲームで大いに笑ってリラックスした後、本学在学中に官民協働留学促進プログラム「トビタテ！留学JAPAN」の派遣生としてパリで学んだ小原先生のお話を聞き、さらに小原先生から出された課題に取り組みました。課題は「フランス旅行大計画」！自分らしいフランス旅行プラン



を考え発表するというものです。旅行計画を立てるためには様々な情報を得る必要があります。限られた時間の中でインターネットや書籍などを用いて各自が準備をし、2日目のグループ報告会でオリジナリティあふれるプランを披露しました。優秀作品は掲示され、受講者とスタッフ全員の投票により最優秀グランプリが決定しました。また掲示された作品からはフランス語フランス文学科長賞が、惜しくも掲示されなかった作品の中からは（小原）花さん特別賞も選ばれています。

2日間を締めくくった「フランスのチョコレートで学ぶ」はフランスの食文化を学ぶ授業です。ガトーショコラやチョコレートアイスなど、関連する単語の発音を練習した後は、チョコレートをめぐるクイズで歴史と文化を学びました。コロンブスはチョコレートを味わったのか？ チョコレートはもともと飲み物だったのか？ チョコレートは健康に良いものとされていたのか？ など大盛り上がりのクイズ大会となりました。最後に、プルーストの『失われた時を求めて』の中のガトーショコラを描いた一節を、二人のフランス人TAに朗読していただきました。美しいフランス語の響きに、みなさん魅了されていました。もちろん、おみやげにも美味しいショコラが入っています。サマースクールを思い出しながら、味わっていただけたでしょうか。

